

8月29日（月）10：00～教職員・保護者・地域関係者が集まり、標記テーマでの熟議を行いました。その内容をぜひ皆様にも知っていただきたく、報告をさせていただきます。天沼小の教育をぜひご理解ください。

基調講話 その1）本日のテーマについて 高橋会長より



阪神淡路大震災、東日本大震災、給水所や食料配給所で順番を待つ行列・・・（写真投影）

アメリカ合衆国からの特別な視察団の調査結論は、給食当番で子どもたちが並ぶ経験をしたから、このような秩序が生まれると伝えた。しかし私は、家庭での教育やしつけ、地域での教育、そして学校での道徳教育があるからだと考える。日本での当たり前が、世界から見ればすごいこと。

家庭・学校・地域の相乗効果により、道徳性の高い日本人が育っていった。

その中心となる学校での「道徳科」、今どのように学んでいるのかを知った上で、家庭では、どのように学校と連携して関わっていけばいいのか、地域では、地元の人たちが人生の先輩として、子どもたちとどう関わっていけばいいのか、それを一緒に考えていただきたい。

基調講話 その2）道徳授業で行われていること 松野校長より



道徳の授業では学べばいいのか。「教育活動全体を通じて行われていく」ことが学習指導要領にも記されている。各教科の学習の中にも、道徳性を養う時間があり、給食当番や掃除当番など係活動の時間にもある。休み時間にも、道徳性を高めるタイミングはある。そういった中で、教員は様々な指導を行って

いくが、その要となるのが「道徳の時間」であり、平成29年に告示され教科化された。

さて、ご自身が小中学生のときに、どのような道徳教育を受けたか覚えているだろうか。私の経験だとNHKの番組を見て感想を書いた記憶がある。その後の時代も、もしかすると適切に行われていないままにきてしまのかもしれない。以下に陥りやすい道徳の例を紹介する。

① 生活指導的な授業展開

規則意識を持たせるために文章を読ませて「〇〇くんはきちんとルールを守っていたよね。君たちはここができてないだろ！どうだ、反省できたか？」というのがありがちな授業

② 学校活動的な授業展開

掃除当番がいい加減だから、学級会で話し合っ規則を考える時間をもち、「それでは、このルールを守りましょう。今日の授業はここまで。」とさせる。これは道徳ではなく学級活動である。

③ 体験的な活動が中心の授業展開

体験して感想を書いて終わってしまう授業

④ 自主的活動が中心の授業展開

教材を読み、ワークシートに書かせるだけで終わってしまう授業。

⑤ 自分の思い込みでの授業展開を

NHKプロフェッショナルの映像を見せ、「どうだ、この人の努力は素晴らしいだろ！以上。」で終わってしまう授業。

道徳が教科化された大きな理由は、「道徳の授業をきちんとやってほしい」から。教科書をつくるから、年間35時間正しいやり方で道徳の授業を計画的にやりなさいというのが、一番の理由である。

もちろん教科化される以前から、きちんと道徳の授業をしていた先生もいるが、その場合は、教科化してもやることは変わらない。毎週1時間、年間35時間、計画的に発展的に取り組んでい

く。読み物教材を通して、内面に（道徳的素養を）築くという道徳の授業を実施していれば、教科化されようともされなかつても、変わりなかつたということになる。

道徳の授業の基本を抑えて、教科書にある教材を使って毎週1時間、35週、指導計画に基づいて、各学年の内容項目※をすべて扱って、自分自身を振り返る活動を通して、徐々にそして確実に養っていく。これが、道徳教育の正しいあり方。

※内容項目のねらいとする道徳的価値は、以下のとおり、4つの柱で22個存在する。

A) 主として自分自身に関すること

- 善悪の判断、自律、自由と責任（低、中、高）
- 正直、誠実（低、中、高）
- 節度、節制（低、中、高）
- 個性の伸長（低、中、高）
- 希望と勇気、努力と強い意志（低、中、高）
- 真理の探究（高）

B) 主として人との関わりに関すること

- 親切、思いやり（低、中、高）
- 感謝（低、中、高）
- 礼儀（低、中、高）
- 友情、信頼（低、中、高）
- 相互理解、寛容（中、高）

C) 主として集団や社会との関わりに関すること

- 規則の尊重（低、中、高）
- 公正、公平、社会正義（低、中、高）
- 勤労、公共の精神（低、中、高）
- 家族愛、家庭生活の充実（低、中、高）
- よりよい学校生活、集団生活の充実（低、中、高）
- 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度（低、中、高）
- 国際理解、国際親善（低、中、高）

D) 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- 生命の尊さ（低、中、高）
- 自然愛護（低、中、高）
- 感動、畏敬の念（低、中、高）
- よりよく生きる喜び（高）

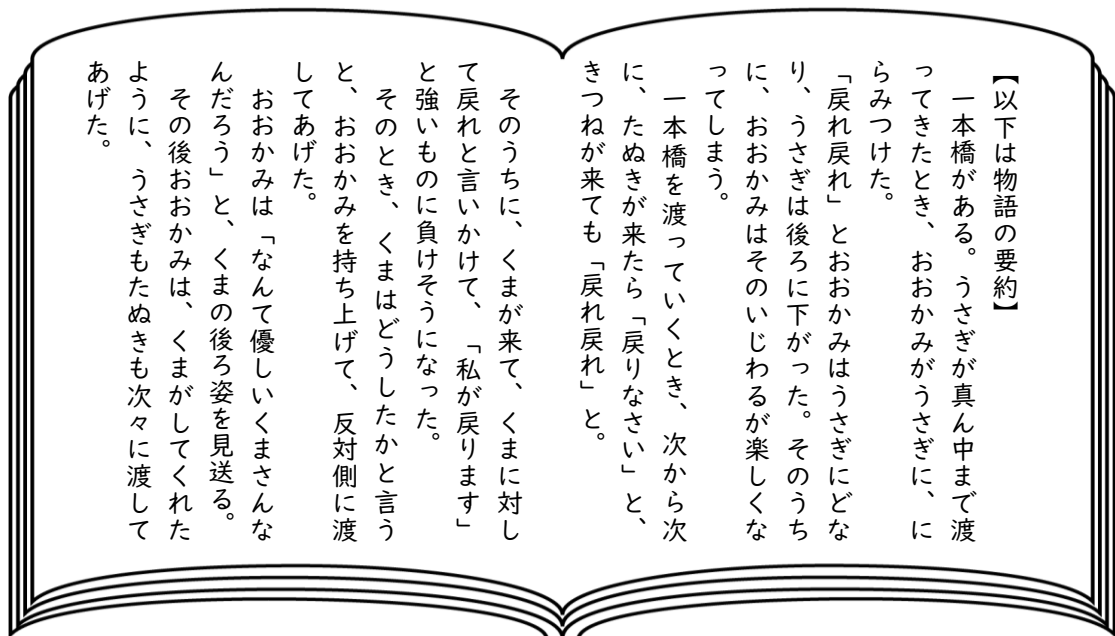
「善悪の判断、自律、自由と責任」と難しいことが書いてあるように思えるが、低学年では「良いこと・悪いことの区別をし、良いと思うことを進んで行うこと」と非常に簡単な言葉で書いてあり「希望と勇気、努力と強い意志」は低学年の言い方で言うと、「自分でやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」とある。

高学年になると「自由を大切にしながら自律的に判断し、責任のある行動をすること」、「より高い

目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」と書かれている。

これらの、読み物教材を用いて授業をする。

後半、高橋会長の話を通して、「はしのうえのおおかみ」という教材が出てくるので、このストーリーについて、簡単に触れておく。はしのうえのおおかみ」は1年生で扱われる教材である。



授業では、場面絵を見せておおかみが最初にうさぎを戻したときのおおかみの気持ちについて、子どもに質問をする。そうすると子どもたちは、おおかみの気持ちになり、「どうだ、おれさまの方がえらいんだぞ」とか「わー気持ちいいな」「これは楽しいぞ」と書いたり発言したりする。

そして、きつねやたぬきを戻したときのおおかみのきもちはどうだったかと聞くと、「みんないうこと聞くなー、おもしろいな」、「いじわるすると気分がいいな」など、こんなことを子どもたちは書いたりする。

なぜ子どもたちにおおかみの気持ちを考えさせるのかというと、ポイントはこのあとの中心発問「おおかみはくまさんに渡してもらったとき、どのような気持ちでしたか」に向かっていくとき、最初から思いやりや親切心について聞くのではなく、子どもたちの内面に「いじわるすると楽しいぞ」という心、その気持ちに気付き、助けられたときの「親切ってありがたいな」、「楽しいな」という気持ちを子どもたちが考えることができる。物語教材を通して、子どもたちは自分たちの本音を引き出すことができるという、道徳の授業の良さがある。

道徳の時間に育てるのは、道徳的实践力という。これは、道徳的实践ではなく、できるかできないかではなく、道徳的实践が考えられるか考え

られないか、自分としてすぐにそれができるようになってほしいというわけではない。潜在的、持続的な作用を持つもので、道徳の授業で性急な変容を求めてはならない。

子どもたちの心の中に、何か骨が引っかかったように残る。そのときすぐには変わらないかもしれないけど、次に同じようなことが起こったとき、そういえばこんなこと考えたことあるな、というように思っ、次の実践につなげていくことのきっかけとなる。

それが、道徳の授業である。ストレートにああしなさい、こうしなさいというのではなく、漢方薬のように徐々に体の中に積み重ねられて、道徳的实践力がついていく、高まっていく、そういうことを期待しているのが、道徳の授業である。

基調講話 その3) 道徳授業を参観する際には

～道徳科の授業で大切にしたい3つのポイント～ 高橋会長より



1学期に、天沼小学校の学校公開講座があり、すべての教室で道徳の授業が行われた。拝見し、先生方が道徳教育の重要性を踏まえて、すごく工夫されていたことを感じた。ただ、残念なのは、それを見る保護者や地域の方々が、どう見れば先生方の工夫していること、頑張っていることを知ることができるかという視点で考えたとき、どうしても、手が挙がっているか、姿勢がいいか、発言が多いかということに視点が向いてしまう。

●1つ目

読み物教材に登場する「主人公」との出会いを大切にしてほしい。それを先生方が工夫されていることを見ていただきたい。

「はしのうえのおおかみ」は、主人公であるおおかみは始めに弱いものをいじめて、「一本橋通さないぞ、帰れ帰れ」と面白いわけである。

ただ、くまに出会い助けてもらい親切にしてもらったことによる心の揺れ動きや、葛藤、そして新たな気づきを共感的に受け止めながら、そのテーマについて、人ごとではなく自分もそうだったと、子どもは登場人物に心を寄せて理解する、そうやって受け止めながら、感動的に出会わせることを先生方は授業で非常に大切にしている。

そうすると、親切や思いやりがテーマだが、自分事としてより深く考えることができるという、道徳の授業の質的な深まりが発生する。

そして、いきなり読み物教材に入るのではなく、前触れがあり、親切とは何か、教材を読みたいという誘い、導入の工夫をしている。

学校運営協議会のメンバーと話をした際、せっかくの先生方の努力を、もっと評価して理解してもらうためには、その授業を見るポイントを絞る必要があると考えた。

私が教育委員会で、新卒の先生方に道徳授業を作るポイントを、「道徳科の授業で大切にしたい『3つの出会い』」として話していたので紹介する。

また、主体的にこの問題について考えてみようという姿勢を作ることも工夫している。

さらに、場面場面で区切りながら、おおかみの気持ちについて考え、黒板やワークシートに書き、動作化している。子どもたちが心を揺さぶられるようにするためにも、まず主人公に出会うことをさせてほしいということである。

●2つ目

「友達の多様な考え方」との出会いを大切にすることである。考え方を広げていく、同じ考えでも、もっと深く考えている人がいた、そのような出会いが生まれるよう、話し合いを進めてほしいということである。天沼小学校の先生方は、グループでの話し合いをととても大切にされているので、そういった点を見てほしい。

●3つ目

この出会いはとても大事で、「これまでの自分」との出会いを大切にしてほしいということである。これは、テーマである親切や思いやりについて振り返った際、これまでそのようなことを考

えてこなかった自分が、この授業を通して深く考えた。そうすると、今までの自分と今の自分はこんなに違う。これからの自分は、すぐにできるかわからないけど、過去の自分と照らし合わせて、反省すべきことはする、そして考え続ける姿勢が生まれる。

特に、先生方は、授業の後半の方で、子どもたちに今までの自分のやってきたことや考えてきた

こと、今話し合っと思ったこと、そこから、これからの自分はどうした方がいいか、このことを考え続ける必要があるということを促している。それも見ていただきたい。

この「3つの出会い」を大切にすることで、質の高い道徳の授業を担保できる。天沼小学校の先生方は、そのような授業を展開しているの、ぜひご覧頂き、皆様にご理解いただきたい。



以上の基調講話の後、グループに分かれて以下の内容を熟議しました。概要を報告します。

熟議 その1) 道徳授業を通して、どのような力を身につけてもらいたいのか？

参加した皆さんからは、ほぼ以下のような力を身につけて欲しいと考えていることが分かりました。

- *多様な人がいること、そしてそれぞれの立場を理解できる力
- *自分のしたいこと、他の人がしたいこと等を理解しつつ、バランスの良い人格を形成する
- *コミュニケーション（聞く・心情を読み取る・自分の考えを伝える）力
- *判断できる（自分を知る・様々な考えがあることを知る・他者を思いやる）力
- *様々な意見を肯定的に受け止められる力
- *大きく「将来につながる力」…対自分：共感・感動する力、対相手：相手の立場になって考える力、自分の気持ちを伝える力、対社会：社会の中の一人としてのあり方を身に付け、規則を守って行動する力
- *いのちを大切にできる力
- *察する・推し量る力
- *受け止める・受け入れる力
- *自分を客観視できる力（他者のよい行い・悪い行いは理解できても自分の行いはどうなのかを考える力が弱い）

熟議 その2) 現状・課題を踏まえて、今後どのようなことをやってみたいと考えるか？

以下のような意見が出されました。皆さんにとってもヒントになることがあるかと思います。学校も、家庭も、地域も、各々の立場を生かして、子どもたちの育ちを応援していきましょう。

- *授業では、児童にしっかり考えさせる余裕をもち、本音で話せる雰囲気づくりを行う。
- *子どもたちの意見を肯定的に受け入れる工夫をする。
- *自分が社会の一員であること意識させられるようにする。
- *正解がないことを教える、押し付けない、多くの意見を聞く等の道徳授業の基本はしっかり続ける。
- *人を思いやった後の「一歩を踏み出す力」まで教えられるとよい。
- *保護者は、子どもを愛し、その愛情を子どもに伝えるようにすること。これが一番大切。
- *保護者は子どもにとって重要な人。自分の話を聞いてもらうだけで自信になる。あいづちで良いので、聞く姿勢をもつことが大事。
- *少し昔のような、気軽に声を掛け合える地域の関係を持てるようになることよい。
- *学校や家庭・地域の連携をして、「道徳」でどのようなことを学んでいるのか、「道徳」は何を学ぶ学習なのかを共有することが大事。
- *家庭の関わりはとても重要だが、どのような関わりが良いのか、折に触れて親子の会話の材料としての情報も発信できると良い。
- *コミュニケーションに消極的、意見が言えない、行動に移せない子どもたちには、学校内外でのリアルなコミュニケーションが必要なのではないかと。
- *リアルコミュニケーションが苦手でも、ICTを活用することでコミュニケーションが取れるようになる子どももいる。両者をうまく活用していくことも大切。
- *周囲の大人たちは、連携してポジティブな声掛けを心掛けたい。
- *コロナ禍で地域活動への参加が疎遠になってしまっている。今後は子どもと保護者と地域とが少しでも距離を縮めていけるための工夫（イベント・祭りなども含めて）をしていきたい。